

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 4 十戒	旧約聖書に記されている十戒は、モーセが神から授けられたとされる10の戒律であり、偶像崇拜の禁止や殺人の禁止に加え、「隣人の家を欲してはならない」といった他者の所有物や妻を欲することを禁じる欲望の戒めが含まれている。これはユダヤ教およびキリスト教における倫理の根幹をなすものである。
問2	答え 2 孟子	人間の本性を善とする性善説を唱え、四端（惻隱・羞惡・辭讓・是非の心）を育てることで四徳（仁・義・礼・智）を実現できるとした。彼は外的な規範である礼樂も、人間の内なる道徳的本性に由来するものと捉え、武力による霸道政治を退けて徳治による王道政治を主張した。これに対し、人間の本性を悪とし、礼による矯正を重視する性悪説を唱えたのは荀子である。
問3	答え 4 パウロ	パウロは当初、キリスト教徒を迫害する立場にあったが、ダマスコへの途上で復活したイエスの声を聞いて回心した。彼は、人間は律法の遵守という自己の行いによってではなく、キリストの贖罪を信じることによってのみ救われると説き、ユダヤ人以外の異邦人に対しても広く伝道を行った。
問4	答え 1 無為自然	儒家が人為的な道徳（仁・礼）を重視したのに対し、道家はそれを作為（偽）として批判した。道家の祖とされる老子や荘子は、天地自然のありのままのあり方に従う生き方を理想とし、これを無為自然と呼んだ。
問5	答え 4 アルケー	初期の自然哲学者たちは、世界の多様な現象の背後にある一なる根源（アルケー）を理性（ロゴス）によって探求した。タレスはこれを「水」、ヘラクレイトスは「火」、デモクリトスは「原子（アトモス）」とするなど、それぞれの思索に基づいて異なるアルケーを提示した。この探求は、神話（ミュトス）から理性（ロゴス）への知的転換を象徴している。
問6	答え 4 韓非子	荀子の性悪説の影響を受け、人間の利己的な本性を前提として、道徳ではなく客観的な法律（法）と君主の統治技術（術）、権力（勢）による統治を主張した。この思想は秦の始皇帝による天下統一の理論的支柱となった。
問7	答え 4 プロティノス	万物の根源を「一者」とし、そこから万物が段階的にあふれ出たとする「流出説」を唱えたのはプロティノスである。彼はプラトンの思想を継承・発展させ、個々の魂が「一者」と神秘的に合一することを人間の理想とした。この思想は新プラトン主義と呼ばれ、キリスト教の教父たちに強い影響を与えた。
問8	答え 4 ザカート	イスラーム教では、信徒が果たすべき基本的な義務として「五行」が定められている。その一つであるザカート（喜捨）は、富裕な信徒が貧しい人々を助けるために、自らの財産から一定割合を拠出する義務的な施しである。これは単なる個人の慈善活動にとどまらず、社会的な相互扶助の仕組みとして制度化されている。
問9	答え 3 シャリーア	イスラームにおける法体系はシャリーア（イスラーム法）と呼ばれる。これは神の啓示である『クルアーン』や、預言者ムハンマドの言行・慣行である「スンナ」などを基礎として体系化されたものであり、信仰のあり方だけでなく、利子の禁止といった経済活動を含む社会生活全般を規律している。
問10	答え 1 空	大乘仏教では、すべての存在は相互に依存して成り立っており、それ自体で固定的に存在する実体はない（これを「空」という）とされる。この真理を体得することにより、救済を行う自己や救済される衆生という対立的な区別への執着から離れ、無条件の慈悲（利他行）を実践することが可能となる。
問11	答え 3 ソクラテス	ソフィストたちが弁論術を教え、真理の相対性を主張したのに対し、普遍的な真理や徳（アレテー）の存在を信じ、対話を通じて魂の配慮を説いた。彼は自らの無知を自覚すること（無知の知）から出発し、真の知恵を愛し求める態度（愛知）を重視した。